第三種郵便物認可　信濃毎日新聞　2011年（平成23

女子 都市大塩尻初V　男子 創造学園連覇

全日本高校バレー県予選

バレーボールの全日本高校選手権県予選最終日は13日、長野市ホワイトリングで男女の準決勝以降を行った。女子の決勝は創部3年目の東京都市大塩尻が東海大三にストレート勝ちし、初優勝。男子は今夏の全国高校総体で優勝した創造学園が3―1で長野日大を下し、2連覇を飾った。

女子の都市大塩尻、男子の創造学園は来年1月5～9日に東京体育館で行われる同選手権（春高バレー）に県代表として出場する。

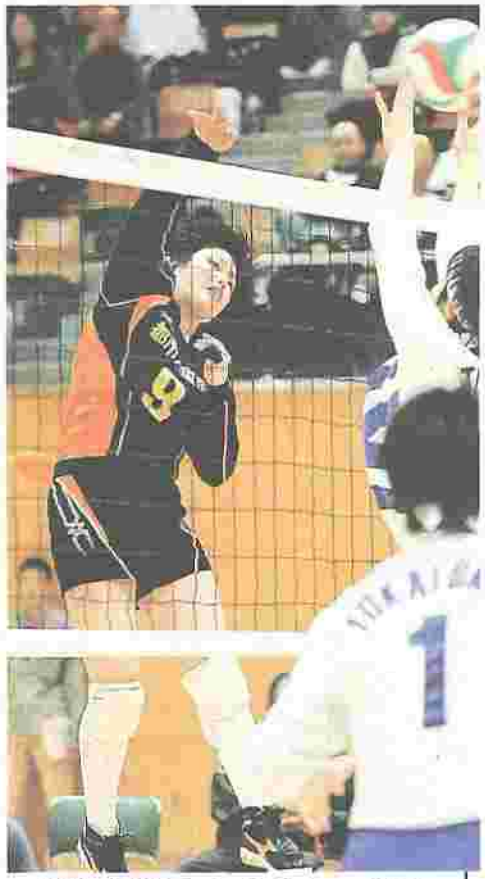
女子の都市大塩尻は、裾花中などを率いて全国中学総体優勝4度の実績を持つ岡田監督が育てた組織力を発揮し、昨年優勝の東海大三に快勝。男子の創造学園は重圧から第1セットを失ったものの、エースの主将柳沢が強打でけん引し、1、2年生主体の長野日大を押し切った。

【男子】▽準決勝
創造学園 2（25 25 15）0 大町
長野日大 2（25 25 16）0 東海大三

▽決勝
創造学園 3（25 25 25 24）1 長野日大
（19 18 14 26）

【女子】▽準決勝
東海大三 2（25 25 25）0 向陽
都大塩尻 2（25 25 13）0 長野日大
（14 18 13）

▽決勝
都大塩尻 3（25 25 25）1 東海大三
（18 20 16）



都市大塩尻―東海大三　第3セット、都市大塩尻・牧田がスパイクを決め13―10とする

都市大塩尻 創部3年目で全国へ

初優勝した都市大塩尻の岡田監督は「長野県のバレー界は、小学生から高校生までの男女で高校女子だけが日本一になっていない。日本一になるのは大変だが、まずは魅力的なチームにしたいと思った」と強調。裾花中を最後に中学教諭を定年退職し、2年前の春から率いてきたチームの躍進に手応えを感じた様子だった。

持ち味は岡田監督が得意とする組織力。184㌢の常川を擁する東海大三には6月の県高校総体でストレート負けを喫した。それ以来の対戦に、岡田監督は「相手の情報を分析し尽くした」とし、セッターの2年生松尾も「パソコンと大型スクリーンを使い、自分たちの動きを確認した」。チームは攻守の質を追求した。この日、先発6人の平均身長で劣ったものの、サーブで崩し、ブロックとレシーブから宮嶋、牧田を軸にしたコンビ攻撃で得点した。

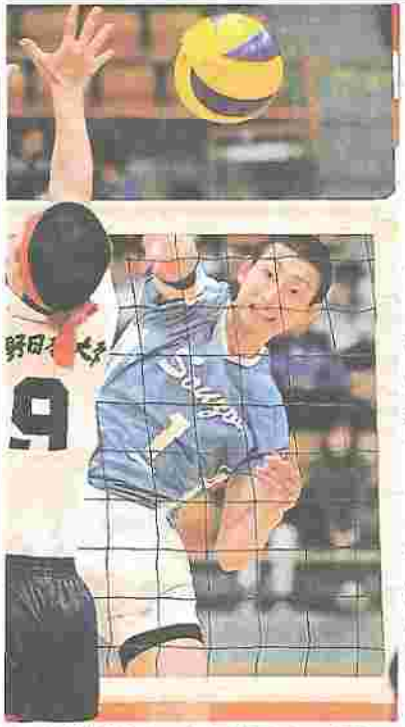
創部1年目から県大会で準優勝し、有力中学生の進路目標として存在感を高めてきた。先発6人のうち、1年生の4人は昨夏の全国中学総体で優勝した裾花中の卒業生。センター窪田は「岡田先生の下でバレーをやりたかった」。人材の県外流出を防いだことも好結果につながった。初の全国舞台に向け、宮嶋は「一本一本を正確にやりたい」と話した。

（松井 哲明）

創造学園 意地見せた3年生

○…創造学園の千生監督は「全国高校総体で優勝してからが大変だった。選手も僕もこの県大会が怖かった」と明かした。10月、同高主体で臨んだ山口国体は初戦敗退。直後の全日本選手権北信越予選でも新潟教員に敗れ、新潟教員を破った長野日大が優勝した。主将柳沢は「チームが低迷して精神的に沈んだ。長野日大の方が強いとも思い、不安だった」という。

不安は受け身がちなプレーとなって表れ、第1セットは追い上げたものの失った。しかしチームは「3年生は最後なので、頂点をもう一度取りたい」という意地が出て変わった」とセッター渡辺。主将柳沢が両チーム最高のアタック得点で引っ張ると、周囲の選手も奮起。リベロ滝野や柳沢を含め、緊迫した展開で両チームに脚がつる選手が相次いだ総力戦をものにした。



創造学園―長野日大　第4セット、スパイクを決める創造学園・柳沢